作成日：西暦 2026 年 8 月 20 日

研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題名:難治性薄型子宮内膜および反復着床不全(RIF)患者に対する多血小板血漿(PRP)子宮内注入療法の治療成績に関する単施設観察研究

本研究はまるた ART クリニックの医学研究倫理審査委員会で審査され、院長の許可を得て実施しています。

１．研究の対象

2020 年 3 月～2028 年 3 月に当院で凍結融解胚移植を実施された方

２．研究目的・方法・研究期間

1) 研究目的

生殖補助医療（ART）において、胚の質の向上や培養技術の進歩に伴い、凍結融解胚移植（FET）の成績は安定化してきています。しかしながら、良好胚を複数回移植しても妊娠に至らない反復着床不全（Recurrent Implantation Failure: RIF）症例や、薬剤を使用しても子宮内膜が十分に厚くならない難治性薄型子宮内膜症例は、依然として大きな課題となっています。

多血小板血漿（Platelet-Rich Plasma: PRP）は、自分自身の血液を濃縮することで得られる血小板密度の高い血漿成分であり、血小板から放出される色々な種類の成長因子を豊富に含んでいます。これらの成長因子には、身体の組織の再生や細胞の増殖、血管の新生、および抗炎症・免疫調節作用があることが知られていて、近年、整形外科や皮膚科分野だけではなく、生殖医療領域においても子宮内膜受容性（Receptivity）の改善や内膜増殖を誘導する新しい治療法として注目されています。

本研究の目的は、当院おいて凍結融解胚移植を行う難治性薄型子宮内膜の患者さんおよび反復着床不全（RIF）患者さんを対象とし、PRP を子宮内に注入した症例と注入していない症例から得られたデータを比較・解析することです。これにより、PRP を注入することでまた妊娠率、流産率への有効性を検証することを目的します。

2) 研究方法

凍結融解胚移植の周期で PRP の子宮内注入を実施した症例と従来の内膜調整プロトコールのみで凍結融解胚移植を実施した症例から得られたデータを比較・解析することで着床率と臨床妊娠率への有効性を検証します。

3) 研究期間

倫理委員会承認日～2028 年 3 月 31 日

３．研究に用いる試料・情報の種類

情報：治療歴、出産歴、採卵時および胚移植時の診療情報、妊娠経過　等

４．外部への試料・情報の提供

外部機関への試料・情報の提供は行いません。

５．研究組織

研究責任者：まるた ART クリニック　副院長　　濱田　雄行

６．除外の申出・お問い合わせ先

試料・情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、お申し出により、研究の対象となる方その他に不利益が生じることはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

まるた ART クリニック

担当者：濱田　雄行

名古屋市千種区覚王山通 8-70-1 池下 ES ビル 2F・3F

電話：052-764-0010

７．利益相反

この研究は、企業等からの資金提供は受けていません。また、この研究に関連する企業と研究者等との間に、開示すべき利益相反はありません。